

「場 = 空間 (Space)」の視点から
見る移住者のライフ

八木真奈美

言語文化教育研究学会例会

2020.11.7

本話題提供では

「場は多様に解釈可能である」という前提のもと

「場 = 空間 (Space) 」と考え、

そこから、何がみえるのか??を

本日の例会という「場」への話題提供としたい

自己紹介を兼ねて

これまでの研究

- ・ 研究：日本に移住されてきた方の日本語を使った生活
ミクロの事象からマクロの社会をみる（八木,2018など）
- ・ キーワード：社会的文脈
- ・ 方法論：エスノグラフィー、ナラティブリサーチなど質的研究

本話題提供では

日本在住20年以上のAさん、ナラティブリサーチ

中国ご出身で、留学生として来日。

その後日本人の方と結婚。

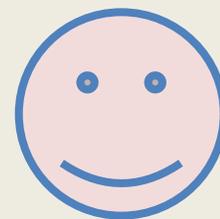
中国語の講師や小学校に派遣されるサポーターなど。

本話題提供では

「私、日本に溶け込んでいる、ふうが楽しいから。」



溶け込んでいる



ふう

本話題提供では

- ・ Aさんのケース：社会的文脈という観点から分析（八木,2015）

Aさんは、戦略的に言語や文化の「異なる文脈を移動」

（Pavlenko,2002）

- ・ 本話題提供

「場」という概念を用いることによる「解釈の更新」（西村,2020）

Aさんのケース 日本に関わる語り

家の中は確かに日本のスタイル、日本人の、伝統的の。

私は努力して。日本のスタイル、たとえば。七五三のときは七五三。

お正月全部、日本のスタイル、おせち作って。

おはしは、お正月用の、全部用意して。

Aさんのケース 中国に関わる語り

大学院で日本史を専攻するのは中国帰るため。

向こうの習慣とか、たとえば中国行ったとき気がつかないこと。

今、日本にいるから。(中略)もう一回、自分の国に文化探しに行く。

日本人にも紹介できるように、常に頭ん中ないと駄目かなと思うんですよ。

Aさんのケース

「ふうが楽しい」

内部にいる外部者の視点

「文化を探しに行く」

外部にいる内部者の視点



Aさんのケース

「私、日本に溶け込んでいる、**ふうが楽しい**から。」

自分自身はもう、日本のことを取り入れるだけじゃなくて、
自分が中国のこともちょうと。身につけないと。**同化されたら
何も意味ない。**



溶け込んでる

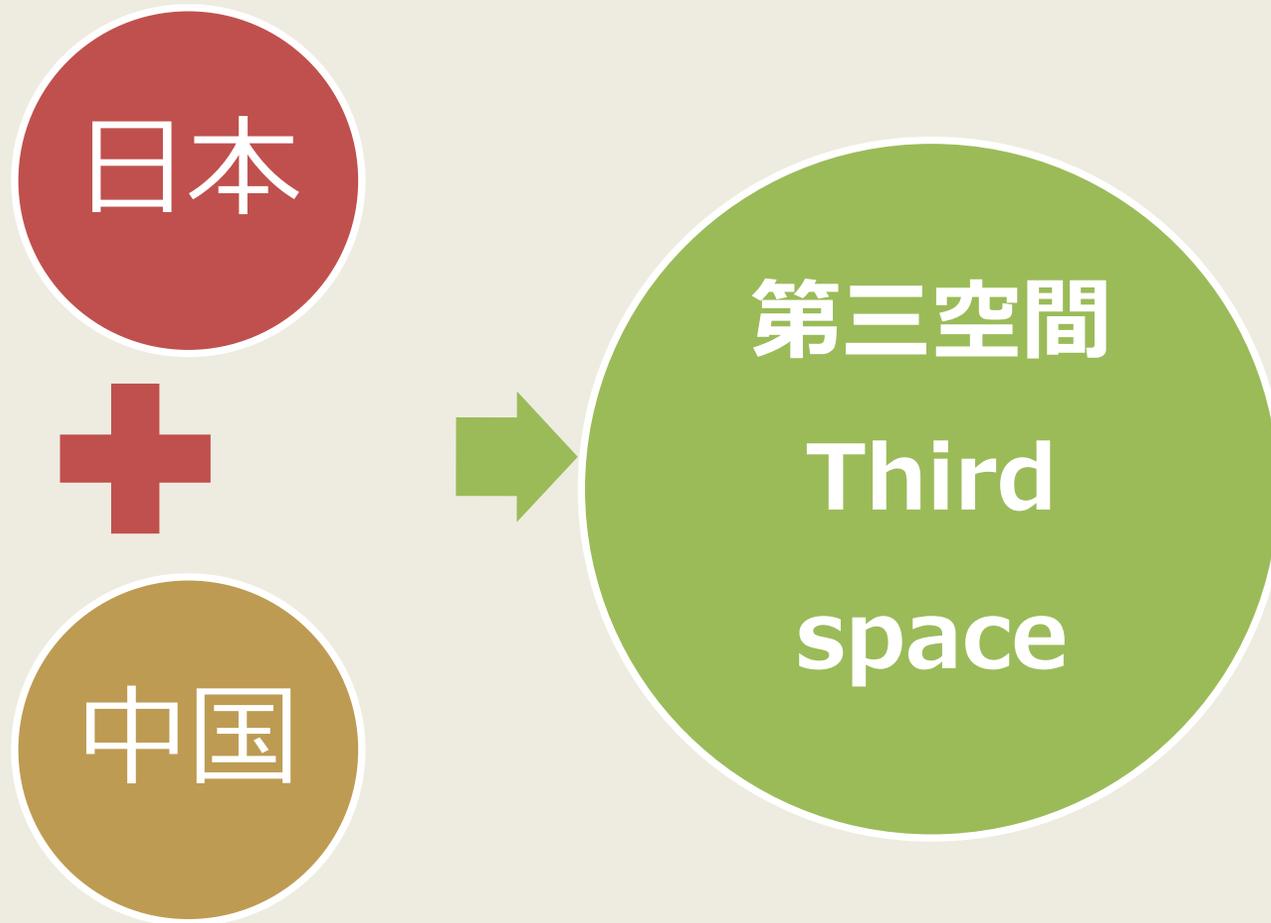


ふうが楽しい



同化されない

Aさんのケース



- ・「周辺的ないし周縁化された位置取りから生じる、支配的な秩序に対する**抵抗**の空間が発生するための領域」

- ・「生きられる空間」

(ソジャ,2005)

とりあえずの結論

「場 = 空間 (Space) 」と考えたとき、そこから何がみえるのか？

- 時間
 - ┌ 時計の時間 (clock time)
 - └ 「内的に体験される質的な時間 (門中,1993) 」
物語によって構築される時間
- 空間
 - ┌ 地理的空間 (place)
 - └ 「内的に体験される質的な空間」

「場」は自己の生成？ 関係的ではあるけれども。

参考文献

西村ユミ（2020）「解釈的現象学」日本質的心理学会第17回大会公開シンポジウム資料

門中正一郎（1993）「生きられる時間／語られる時間」ソシオロジ37-3, 27-35.

八木真奈美（2015）「日本語学習者から日本語ユーザーへ」第19回AJEシンポジウム予稿集

八木真奈美（2018）「移住者の語りに見られる『経験の移動』が示唆するもの—Agencyという観点から」川上郁雄・三宅和子・岩崎典子『移動とことば』くろしお出版 (pp.171-189).

ソジャ,W.エドワード（2005）加藤政洋訳『第三空間—ポストモダンの空間論的転回』青土社

Pavlenko, A. (2002). Poststructuralist approaches to the study of social factors in second language learning and use. In V. Cook (Ed.), *Portrait of the L2 Users*. (pp. 277-302). Clevedon: Multilingual Matters.

ご清聴、ありがとうございました。